

# 麦作雑草ママコノシリヌグイの生態と防除

## 第1報 発生活長と除草剤の効果

矢野雅彦・田中昇一・\*津田泰則 (福岡県農業総合試験場豊前分場・\*福岡県築上農業改良普及所)

Masahiko YANO, Shoichi TANAKA and Yasunori TSUDA: Ecology and Control of Polygonum senticosum Franch. et Say. in Barley and Wheat Field.

### 1. Seasonal Variation in Emergence and Effects of the Herbicide

麦圃には多種のタデ科雑草が発生するが、ミチヤナギを除いていずれも発生時期がおそいことから、麦との競合で生育量が小さい場合が多く、大きな問題とならなかった。しかし、麦類の採種を行っている地域では、麦種子中にタデ科雑草ママコノシリヌグイの種子が混入して問題となっており、採種圃以外でも雑草種子の混入が品質低下の原因となるおそれがある。本報ではママコノシリヌグイの防除法を確立するため、その発生活長と除草剤の効果について検討した結果を報告する。

#### 1. 試験方法

1985年に福岡県築上郡内のママコノシリヌグイの発生した麦圃で、アイオキシニール乳剤、MCP 乳剤、ペンタゾン・MCP 水和剤を3月25日(大平村の2カ所)と3月28日(築城町)に処理した。処理時の麦の草丈は42~54cm、ママコノシリヌグイ葉令は本葉0.5~2.3葉であった。試験規模は大平村の実証試験が5~8aの1区制、その他は5㎡前後の2区制とした。発生活長の調査は主に大平村で行った。

#### 2. 結果および考察

1) ママコノシリヌグイの発生活長と種子の形質 第1表に示すように発生は3月上旬をピークとして、発生期間は比較的短い。発生深度は最高7cm程度とかなり深い。開花は4月6日半旬ころに始まりその後連続的に開花し、結実は5月中旬ころからで、麦の収穫期には多くが成熟している。

種子は黒色楕円形で、粒径、粒重ともかなり大きい。

第1表 ママコノシリヌグイの発生活長と種子の形質

出 芽		同 左		草 丈		種 子 の 形 質					
始 期	盛 期	終 期	深 度	開 花 始	葉 数	結 実 始	(5月15日)	色・粒形	長 径	短 径	千 粒 重
2月 6半旬	3月 1半旬	3月 4半旬	0~7cm	4月 6半旬	6~7	5月 3半旬	20~37cm	黒色 楕円形	4.1±0.3 <sup>mm</sup>	3.1±0.3 <sup>mm</sup>	16.0g

第2表 除草効果および麦収量

(残草量調査5月13日)

試 験 場 所	項 目	大 平 村 (チクシコムギ)				築 城 町 (イシユクシラズ)				大 平 村 (実証) (農林61号)	
		残草量対無除草比		子実重対		残草量対無除草比		子実重対		残草量対無除草比	
		ママコノシリヌグイ	その他タデ科	無除草比	%	ママコノシリヌグイ	ヤエムグラ	無除草比	%	ママコノシリヌグイ	その他タデ科
無 除 草	g, ml/a	100	100	100	%	100	100	100	%	100	100
(㎡当たり残草量g, a当り子実重kg)		(6)	(36)	(40)		(5)	(21)	(35)		(5)	(4)
アイオキシニール乳	20	t	1	99	%	0	9	112	%	—	—
M C P 乳	30	84	57	103	%	81	21	108	%	—	—
ペンタゾン・MCP水和	50	14	3	104	%	2	4	126	%	—	—
々	75	t	1	104	%	0	2	113	%	2	t
アイオキシニール乳+MCP乳	20+30	5	10	102	%	0	2	100	%	8	t

注) ①初期除草剤はトリフルラン粒剤施用。②各区とも葉害は認められなかった。

このため、粒厚による選別は不可能で、風選も困難である。ただし、乾燥した種子は水に浮くため、播種時の種子消毒等により、ある程度は除去することが可能である。

2) 除草剤の効果 ママコノシリヌグイの発生時期は遅いため、現在行われているヤエムグラを主対象にした生育中期処理では除草効果は期待できない。このため、発生揃期の3月下旬に処理を行った。

ママコノシリヌグイに対する除草効果はアイオキシニール乳剤の20ml/a、ペンタゾン MCP 水和剤の50~75g/a処理が高く、MCP 乳剤は劣った。

ヤエムグラは3月下旬には8節程度になっており、アイオキシニール乳剤は十分な効果が期待できないが、MCP 乳剤の混用により効果が向上し、葉害は認められなかった。ペンタゾン・MCP 水和剤はヤエムグラにも効果が高く、広葉雑草全般に安定した効果を示した。

#### 3. まとめ

ママコノシリヌグイは3月に発生し、麦収穫時には種子が形成される。その種子が麦子実中に混入すると除去が困難で麦の品質低下を来す。防除法としては3月下旬のアイオキシニール乳剤、アイオキシニール+MCP 乳剤、ペンタゾン・MCP 水和剤の処理が効果的である。なお、アイオキシニール乳剤を除き、生育の進んだヤエムグラも同時防除が可能である。